

優 秀 賞

「社会を支える建設業」

愛知県立一宮工業高等学校 土木科 3年
葛 谷 太 陽

私は、一宮市にある一宮工業高校の三年生です。一宮工業高校には、機械・電気・建築・土木といった学科があり、それぞれ専門的な知識や技術を学ぶことができます。高校に入学するまでは、土木や建設について特に関心がなかった私ですが、一年生の時に学んだ測量や、土木施工の実習を通して、土木や建設に興味を持つようになりました。今までは意識することはなかった、土木や建設にも色々なものがあります。多くの場合は、水の治水・利水から始まり、集落を形成するための設計や施工、そして集落の間を結ぶ道路を造り、そこから文化が形成されています。社会を支えているのは建設業だと思います。実際に私の周りを見ても道路・トンネル・鉄道・橋・上下水道・ガス・電気など生活に欠かせないものが多く、建設によって作り出されています。そして、それらがなければ、便利で安全な暮らしを送ることはできず、今の私たちの生活は建設で支えられていることは言うまでもありません。

私は、高校でそういった事実を一つ一つ知ること、改めて土木や建設業の大切さを感じるとともに、私自身も「将来は土木や建設に携わる仕事がしたい」と思うようになりました。そして、実際に仕事をするためには、その仕事をするために資格を必要とするものが多いと思います。土木工事の施工計画を作成し現場の責任者として仕事をするためには土木施工管理技士の資格が必要となります。公園の工事や緑地化工事の施工管理をするには造園施工管理技士の資格が必要となります。その他にも測量士、電気工事施工管理技士、建築施工管理技士などあります。中には資格がなくてもできる作業もあるが、仕事として誰からも安心して任せてもらおうと、資格が重要となります。そして現場の技術者として仕事をする上では、特殊車両にかかわる免許や、特別教育を修了する必要があります。私は高校生活で、平板測量、トラ

ンシット測量、水準測量、コンクリート打設などの様々な実習を体験してきました。そのおかげで「やりがい」を持つようになりました。これまでは、土木や建設業が社会を支えていると聞いても、漠然としたイメージでしたが、実際に実習を終えた後に感じた達成感は何にも変え難いものでした。だからこそ私は、高校三年間で農業や工業など様々な分野を比較する中で選んだ土木、建設業について、より深く学んできました。そして、土木、建設の何を専門にしていこうかは、自分自身の将来を模索したいと思っています。

私の周りには、就職試験を控えた友人がたくさんいます。その多くは販売やサービス、福祉といった職種を希望する人が多いです。一方で土木や建設業を目指すという友人がほとんどいません。それは、土木や建設業にやりがいがないのではなく、仕事が少ないのではという不安が大きいからです。しかし、土木や建設業には社会を支えるという大切な使命があります。1990年代からは橋やトンネル、水道管などの老朽化による事故が相次いでいます。そして東日本大震災により失われたインフラの整備など国を挙げて取り組んでいく課題も沢山あります。私たちが安心して暮らしていくためには、こうした問題を一つずつ解決していかなければならないと思います。そこには、土木や建設業の力が必ず必要となります。

私はまだ土木や建設業に携わることはできませんが、卒業後は即戦力となる資格を身に付け、技術力と指導力を持った技術者になりたいと思います。そして、建設業界の一員として社会を支えていきたいと思えます。そして、いつかは人々から信頼される土木技術者を目指します。それが私の生きる道です。今までは、すぐに諦めていたことも、諦めず最後までやり遂げようと思えるようになりました。これからは毎日、一生懸命、諦めずに頑張りたいと思います。